

と しょ 図 書 だ よ り



家庭数

ことし
今年もよろしく

おねがひします！

あたら ほん
新しい本も入っています！



としょかん
図書館カレンダー 1月・2月

げつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金
1/13 ×	14 ○	15 ○	16 ×	17 ○
20 ○	21 ○	22 ○	23 ×	24 ○
27 ○	28 ○	29 ★	30 ×	31 ○
2/3 ○	4 ○	5 ○	6 ×	7 ○
10 ○	11 ×	12 ○	13 ×	14 ○
17 ○	18 ○	19 ★	20 ×	21 ○
24 ×	25 ○	26 ○	27 ×	28 ○

★： 2、3時間目に図書ボランティアさんがお仕事をしてくださっています

こうちょうせんせい

校長先生のプレミアムしおり

3学期いっぱい
チャレンジ
できます！

ほん もり がつ さつじょうほん か ひと
本の森で4月から100冊以上本を借りた人に

『校長先生のプレミアムしおり』をプレゼントします！

こんねんど こうちょうせんせい か いぬ
今年度は、校長先生が飼っている、かわいい犬の

しゃしん い
写真入りのものもあります♡

がっき ほん か
3学期も、たくさん本を借りてプレミアムしおりを

ゲットしよう！！

「プレミアムしおり」も「図書委員クイズ」も1人1枚です



図書委員クイズ



としょいいん かんが ほん もり けいじ
図書委員さんが考えたクイズを本の森に掲示します！

もり もり み こた
おはなしの森・ちしきの森をよく見て答えてみよう！

こた か かみ ほん もり
答えを書く紙は本の森にあります。

チャレンジしてみてね！！

「てるちゃんのかお」作/藤井輝明 絵/亀澤裕也 (金の星社)

校長先生が新聞記事を手にも本の森にいらっしやいました。

探していたのは「てるちゃんのかお」という絵本です。
新聞記事には「無関心はいじめであり、いじめは犯罪
です」と書かれていました。

絵本の作者、藤井輝明さんは2歳の時に血管にできた
腫瘍により顔がはれあがる病気になりました。幼稚園の
ころからいじめが始まり、小学校では転校せざるをえま
せませんでした。

その後、転校先の学校ではいじめられることはなくなり、
バイオリンや水泳など様々なことにチャレンジし続けた
藤井さんは医学博士になりました。

てるちゃんに「おばけ」と言ったのも、小学生。
その様子を見て見ぬふりをしていたのも、小学生。
てるちゃんと楽しく学校生活を送ったのも、小学生。
つらい状況を乗り越えたてるちゃんも、小学生。
あなたは、どんな小学生になりたいですか？



藤井輝明さん

今年はずみ年

2020年は十二支の始まり、ねずみ年になり

ます。「ねずみ」は漢字で書くと「鼠」ですが、

十二支のねずみは「子」です。不思議ですね。

実は十二支の元々の意味は、紀元前17世紀から11世紀頃の中国で
考えられたカレンダーからきており、それぞれの干支は植物の成長を
表しています。その後、天文学者が覚えやすいように動物にあてはめ、
それがやがて、時刻、方位、年を表すようになりました。

今年新しい命がめばえる「子年」です。みなさんも何か挑戦して
みてはいかがでしょうか？（十二支の漢字のいわれには諸説あります）



まなの本棚

PTAの皆さまからの寄付で、今年もたくさんの本を購入しました。その中の1冊に『まなの本棚』があります。これは現役中学生の芦田愛菜さんが、今まで読んできた本について書かれたものです。今月は、その中から少しご紹介します。

「落語絵本シリーズ」 クレヨンハウス

作/川端誠

落語を聞いたことがありますか？Eテレの「にほんごであそぼ」にでてくる「じゅげむ」も落語です。おもしろい落語を上手な噺家さんが高座にかけると、何回聞いても笑ってしまいます。このシリーズは大人気の絵本作家、川端誠さんが腕を振るっているのので、面白さは保証済み！

はっきりとした絵で楽しくわかりやすく落語に親しむことができます。



「若おかみは小学生！」 講談社

作/令丈ヒロ子 絵/亜沙美

映画化されたので、タイトルは聞いたことがある人が多いと思います。もちろん、原作本もとても元気がでる1冊です！両親を亡くした主人公おっことは、おばあちゃんの旅館「春の屋」に引き取られ若おかみを自指すことになります。

「お客様に喜んでもらいたい」「若おかみとして認めてもらいたい」「みんなでがんばろう」。働くことの楽しさがつまっていて、続きも読んでみたくなると思います。



「星新一 シリーズ」

今、高学年の皆さんに人気の「5分後シリーズ」。もしかしたらその元祖は星新一さんかもしれません。

5分どころか、2分くらいで読み終わってしまうような短い話もたくさんあるので、気楽に手に取ってほしいなと思います。

約50年前に書かれた話なのですが、未来を予測していたのかなと思えるような描写がいくつも出てくるので、ストーリーだけでなく、星新一さんの想像力や予測力を楽しむこともできます。

